

令和8年度 第1回事業評価監視委員会 一括審議案件一覧(事業進捗等に大きな変更がない事業)

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等 上段: 前回 評価時 下段: 現時点	総事業費 (億円) 上段: 前回 評価時 下段: 現時点	事業概要	事業を巡る 社会経済情勢等 の変化	事業の 進捗状況	事業の進捗 の見込み	コスト削減や 代替案等 の改善	事業の投資効率性	都道府県・政令市等 の意見	対応方針 (原案)	
一般国道8号 福井バイパス	福井県あわら市 笹岡～福井県越前市塚原町	S41年度～R10年度 S41年度～R14年度 (+6%)	1,005 1,035 (+3%)	福井バイパスは、交通の円滑化、地域産業の活性化、交通安全の確保を目的とした延長42.2kmの道路である。	事業の効果や必要性を評価するための指標の変化及びその他の周辺環境変化等について確認した結果、事業の目的が失われるような社会経済情勢の変化はない。	進捗率 (事業費) 約90%	現在、事業進捗上の大きな課題は生じておらず、引き続き事業を推進し、早期の完成を目指す。	事業に伴う発生土の搬出先について、民間の有料受入地へ搬出することとしていたが、行政間の協議を実施し、公共事業間の流入によりコスト削減を図る。 今後も、技術の進展により新技術・新工法の採用など、コスト削減に努めながら事業を推進。	【事業全体】 総便益B : 11,442億円 総費用C : 5,487億円 B/C=2.1	【残事業】 総便益B : 253億円 総費用C : 115億円 B/C=2.2	【福井県知事】 国道8号福井バイパスの対応方針(原案)「事業継続」については、異存ない。 国道8号は、関西・中京から北陸、東北を結ぶ日本海側の国土軸で、物流において大きな役割を果たすとともに、国土強靱化に不可欠な重要な路線である。平成30年2月および令和3年1月の大雪では、長時間の通行止めが発生し、社会経済への大きな影響が生じたことから、機能強化を進めることが急務になっている。 しかしながら、福井バイパス(あわら市笹岡～坂井市丸岡町玄女)は、用地買収が完了しているものの、平成30年度に暫定2車線で開通後、長年4車線化されていない状況が続いている。その間、物価高騰により事業費が増額となることは、非効率であるため、早期に完成年度を示し、一日も早い4車線化を実現されることを強く要望する。 また同様に、石川県鏡部の金津道路、牛ノ谷道路についても早期4車線化をお願いする。	事業継続
揖保川総合水系環境整備事業	兵庫県 姫路市、たつの市、中央市、揖保郡太子町	S51年度～R20年度 S51年度～R20年度 (±0%)	116 118 (+2%)	人と河川の関わりが深かった頃の揖保川を目指し、水質汚濁の著しい揖保川下流部および林田川で水質改善を実施する。また、魚類の移動の妨げとなっている施設の改良や、丸石河原を再生することで、多様な生物の生息・生育・繁殖環境および河川景観を保全・創出する。さらに、人と河川の豊かなふれあいの場の確保を目的に、沿川自治体と連携した河川空間の整備を図る。	事業の効果や必要性を評価するための指標の変化及びその他の周辺環境変化等について確認した結果、事業の目的が失われるような社会経済情勢の変化はない。	進捗率 (事業費) 約92%	事業進捗上の大きな課題はなく、引き続き、順応的管理の体制を維持・確保した上で、事業を推進し、早期の完了を目指す。	今後も、新技術・新工法の採用や掘削土砂の有効活用など、コスト削減に努めながら引き続き事業を推進していく。	【事業全体】 総便益B : 958億円 総費用C : 413億円 B/C=2.3	【残事業】 総便益B : 34億円 総費用C : 7億円 B/C=4.6	【兵庫県知事】 揖保川総合水系環境整備事業の「事業継続」の方針に同意する。 揖保川の下流部では、昭和40年代頃から悪臭が発生し、全国ワースト3の水質汚濁が生じるなど生物の生息にも支障をきたしていたため、昭和51年度より導入された本事業のほか、県・市町による流域下水道の整備等、流域関係者が連携して水質改善に取り組んできた。その結果、水質は飛躍的に改善し、アユなど生物の生息環境もかなり回復した。 環境の回復に伴い生物多様性や親水への関心が高まる中、今後も、生物生息環境の再生、魚道整備、親しまれる河川空間の整備を進めることが必要であるため、平成25年7月に策定された河川整備計画のもと、継続して揖保川総合水系環境整備事業の着実な推進に取り組んでいただきたい。 なお、事業の実施にあたっては、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用、効率的な施工方法など、より一層のコスト削減に努めていただきたい。	事業継続
大戸川ダム建設事業	滋賀県大津市	S53年度～R15年度 S53年度～R15年度 (±0%)	1,163 1,163 (±0%)	大戸川ダム地点の計画高水流量 1,350m <sup>3</sup> /sのうち 1,070m <sup>3</sup> /sの洪水調節を行い、大戸川沿川の洪水被害を軽減し、既存ダム群と一体となった洪水調節により宇治川・淀川の洪水被害の軽減を図る。	事業の効果や必要性を評価するための指標の変化及びその他の周辺環境変化等について確認した結果、事業の目的が失われるような社会経済情勢の変化はない。	進捗率 (事業費) 約73%	・現在は、ダム本体や付替道路の設計、ダム本体工事用道路及び付替道路の工事を実施中。 ・今後、ダム本体の基本構造の決定を踏まえ、ダムの詳細設計等の精査を進め、事業費・事業期間を検討し適時・適切に事業の再評価を実施する。	<コスト削減> ■ダム本体関連 ・仮置き掘削ずりの堤体骨材への適用 ・放流設備等の最適配置によるダム本体構造の合理化 ■付替道路関連 ・栗東信楽線南側区間及び市道等の付替道路計画の見直し  <代替案立案の可能性> ・ダム検証(H28)において大戸川ダムについては、「大戸川ダムを含む現行計画案」のほか、最終的に8案の代替案を抽出して比較検討を行ったが、「大戸川ダムを含む現行計画案」が最も優位との結論となり、大戸川ダム建設事業は「継続」と判断した。 ・令和3年4月12日淀川水系流域委員会において、大戸川ダム検証(H28)の評価軸ごとの評価の変化を整理した結果、「総合的な評価」に影響を与えるような大きな変化はないことを確認している。	【事業全体】 総便益B : 2,384億円 総費用C : 1,994億円 B/C=1.2	【残事業】 総便益B : 2,390億円 総費用C : 299億円 B/C=8.0	【滋賀県知事】 「対応方針(原案)」案のとおり「事業継続」で異論はない。 なお、今後、ダム本体の基本構造の決定を踏まえた事業費・事業期間を検討する際には、コスト削減に努めるとともに早期完了を図られたい。  【京都府知事】 事業費・事業期間に変更がないことから、事業を継続するとして対応方針(原案)に異論はない。 なお、ダムの詳細設計等について、外部有識者も含めて費用や効果を検証し、事前に時間的な余裕をもって本府と十分な連絡調整を図りながら、精査を進めるとともに、本体工事の実施においては、徹底した費用の削減を図っていただきたい。 また、事業費・事業期間に変更が生じた際には、速やかに事業の再評価を実施していただきたい。  【大阪府知事】 「対応方針(原案)」案については異存ありません。ただし、以下の事項を要請します。 早期に詳細設計及び事業の内容を示すとともに、府負担額の軽減に向けて更なるコスト削減を図られたい。	事業継続